



Message 教育文化学部

教育文化学部長
佐藤 修司 教授

学部の研究の特徴や 目指している方向性

教育文化学部の教員の専門分野は教育学や心理学などの人間科学、歴史学や文学、言語学などの人文科学、社会学や経済学、地理学などの社会科学、数学や化学、生物学などの自然科学にとどまらず、芸術やスポーツの分野もあり多彩です。「広く浅く」というと「深く狭く」に比べてイメージが悪い感もあります。が、多様な学問分野を「総合化」「学際化」することによって、これまでにないものを生

み出したり、将来の予測不能な事態に柔軟に対処できたり、種々の専門の人たちと協働し、つなげることができたりします。人間は誕生してから、家庭や学校、職場、地域などいろいろな場所でも、成長・発達、学習、生活、労働、子育て、高齢化などのライフサイクルを経験します。人間がよりよく生きるために教育や社会、文化はどうあるべきなのか、どのような支援・ケアが必要なのかをさまざまな視点から総合的に探っています。

中でも重視している点は第一に、教育的、心理的な支援に関する研究です。学校を中心として、すべての子どもたちが「主体的、対話的で深い学び」を実現するための教育課程や授業デザイン、方法の研究、それを実現するためのカリキュラム・マネジメントや学校経営、教師の養成や研修についての研究も行われています。発達障がいも



含め、さまざまな障がいに対応した特別支援教育に関する研究も重要です。また、いじめや不登校など、子どもに関わるものだけでなく、成人に関わるものも含め、カウンセリングなどの方法が研究されています。附属学校園は教育実践のさらなる向上を目指し、独自に研究活動に取り組みとともに、学部教員の研究の場を提供し、その

研究成果を実践・検証する場ともなっています。第二に地域社会の活性化に関わる研究です。少子高齢化が全国一のスピードで進む秋田ですが、それだけに、その分析と対策の考察、検証の場として実験的な価値を有しています。農業の六次産業化など、今後の産業のあり方や、地域のコミュニティのあり方、伝統的な文化の保存・活

用のあり方、街並みや景観、観光による地域振興のあり方、情報化社会、グローバル化への対応のあり方、自然など、環境の保護や活用もあり方など、対象はさまざまです。少子高齢化の影響をできるだけ抑え、持続可能な社会を作ることに、これが大きな課題となります。

70周年記念シンポジウムに参加した 高校生からの質問に対する回答

Q 楽しみながら個性を伸ばす授業は可能？

この課題は学部だけでなく、秋田県全体で取り組んできた課題です。秋田ではすでに探究型授業がほとんどの教室で展開されています。探究型の授業では、毎時間の最初にその時間の目当てなどをきちんと提示し、最終のまとめの振り返りに向けて、個人での活動、グループでの活動、全体での活動をうまく組み合わせ展開していきます。

その中で、子どもたちの一人ひとりの深い学びが実現します。「主体的で対話的で深い学び」は単に活動的であればいいものではありません。話し合うことよりも、むしろ聞き合うこと、仲間の意見を深く理解し、尊重しながら、自分なりの意見を作っていくこと、失敗や間違いを大事にすることが重要になります。

すべての多様な個性が尊重され、お互いに影響し合い高め合うことで、さらにそれぞれの個性が伸ばされるのが理想です。そのような授業づくり、学級づくりが今後求められます。

Q 教育のAIは
どこまで進むのか？

教師は第一に専門職として高度な判断力が要請されます。受験の点数を機械的に上げるだけの授業ではなく、児童生徒のさまざまな状況を総合的に捉えて支援していく力は、簡単にAIに代替されるものではありません。

第二に、教師は人間として「弱さ」を持ち、さまざまな失敗を重ね、悲しみや苦しみを知っていることがAIに対する教師の強みです。弱さを持たない「完璧な教師」は、悩みを抱えた子どもにとって重荷しかありません。学校の子どもたちが多様なように、教師も多様であるべきです。多様さに対応できる柔軟さが必要です。

AIは人間の幸福のために適切に使われるべきで、人権や尊厳を傷つけるような使い方がされないように常にチェックする必要があります。

Q 地域のさまざまな文化に関する研究にも興味がある。

竿燈やかまくら、西馬音内盆踊り、各種の民謡や音楽など、秋田には全国的に見ても多くのものがあります。それを芸術の面から、体育の面から検討することも可能ですし、歴史や社会の面から研究することも可能です。地域文化学科の授業では、教員と学生が一緒に地域文化や社会を調査しています。地域の文化は地域コミュニティの核ともなっていて、昔の祭りの復活が地域の元氣にも繋がることを学生は体感しています。失われていく文化を次世代に伝えることと同時に、地域社会の活性化につなげる方策が模索されています。